



今月の読み物

- P2 原水爆禁止世界大会
- P4～5 ウクライナ取材報告西谷さん
- P6 大阪カジノは止められる
- P7～ 「鳥鷲の争い」
- P8 英語で世界を読む会・川柳

〒540-0004大阪市中央区玉造1-6-11黒石ビル



平和公園にて 写真提供 西村健史さん

# 原水爆禁止2023年世界大会 ー長崎大会に参加して

西村健史 AALA会員

8月7日、猛暑の中、そして台風が近づく中で開会宣言が行われました。鈴木史郎長崎市長が挨拶しました。核抑止論は破綻し核廃絶を即時廃止する旨の言葉に感動しました。

富田宏治大会起草委員長の主催者報告、政府代表のアレクサンダー・クメント（オーストラリア大使）らの挨拶の後、核兵器のない世界を、とたたかうアメリカ、イギリス、フィンランド、ウクライナ、韓国の代表が語りました。その後は文化企画などもおこなわれました。

台風6号が近づきつつある8日は、大幅予定変更。午前中に分科会が11ヶ所で行われ、午後は繰り上げて閉会総会が行われました。

国連を代表して中満泉国連事務次長らの挨拶。長崎からのメッセージが行われた後、5人の海外発言が続きました。日本でたまたかう人々の決意が行われました。大会の文書が採択され、フィナーレとなりました。

私は、1日目終了後平和公園に行き、平和祈念像の前で、永久の平和を祈ってきました。

総会終了後は、会場の外は、もう横殴りの雨でした。

今回は日程が3日から2日と短縮されましたが中身の濃いものでした。

翌日の9日臨時観光バスで帰って来ました。

(2023年8月7日～9日)

ブログ「西村健史のチョットいいですか」より

# 核兵器廃絶へ連帯と行動を 世界への発信 原水爆禁止2023年世界大会・長崎

被爆78年を迎えて、4日から国際会議が広島で始まり、7、8日と長崎の大会となりました。

ここでは7日、8日の長崎大会の発言、挨拶、ビデオメッセージから紹介させていただきます。

被爆者とともに、核兵器のない平和で公正な世界を人類と地球の未来のために」をテーマに、原水爆禁止世界大会・長崎の開会総会が7日、長崎市内で開かれました。

8日は台風接近のために日程を変更しナガサキデー集会（閉会総会）と分科会を開きました。オンライン視聴と併せて4300人が参加しました。

核兵器廃絶に向けて「ただちに行動に立ち上がる」と訴える決議「長崎からの呼びかけ」を採択し、閉幕しました。

各国政府に核兵器禁止条約への参加を求め運動を強化しよう

関西学院大学教授  
国際会議宣言起草委員長  
富田宏治さん



主催者報告で富田宏治国際会議起草委員長は、核兵器の廃絶は人類の死活にかかわる緊急課題だと述べ、ヒロシマ・ナガサキの悲劇を繰り返させない唯一絶対の保証だと指摘しました。

核なき世界は長崎の使命

長崎市長あいさつ  
鈴木 史朗さん



核兵器のない世界の実現は被爆地・長崎の悲願であり使命です。しかし。第2次世界大戦の終結から78年が経過する中で、世界に警鐘を鳴らし続けた被爆者の平均年齢は85歳を超えています。

次の世代が被爆者のバトンをしっかりと受け継ぎ、これまで以上に力を合わせて

核兵器や戦争をなくす声を大きくしていくことが重要です。長崎市が、平和を築く力になりたいと思う全ての人達と手を携えて、核兵器廃絶を訴え続け、平和の和を大きく広げられることを心から願っています。

「核廃絶」を国家目標に

（特別発言

（慶応大学名誉教授

・弁護士

小林 節さん



核兵器が人類に対して再び使われようとしているいまこそ、私たちは核兵器の非人道性を世界に向けて明確に発信していく責任がある

ります。また日本国民には主権者としてすべきことがあります。日本政府に核兵器禁止条約を批准させることで「核兵器廃絶」は倫理性を持った人類としてめざすべき「理想」です。とくに、世界史上唯一の被爆国である我が国は「核廃絶」を国家目標に掲げる十分な資格があります。

5月に広島で開催された主要7カ国サミットで、岸田首相は議長国でありながら「核による抑止力」を肯定する宣言をまとめてしました。被爆者に対する冒とくであり、人類文明の進歩を妨げる愚挙です。

岸田首相の愚かしさに反省を求めることができるのは、日本国の主権者国民だけです。禁止条約の批准を総選挙の争点の一つにする運動を提案します。

核兵器廃絶の思いを持ち長崎に集まったみなさまに感謝と尊敬の念を表明しま

# 核廃絶へ 世界は一丸に

国連事務局長

・軍縮担当上級代表  
中満 泉さん



なものとなることを期待しています。

この場を借りて、現在の危険な傾向を逆転させ核兵器廃絶のために世界が一丸となって取り組む努力を増やせるよう呼びかけます。国連でも皆様の活動が世界に反映されるよう努力してまいります。

私たちは、今日の若者たちが変革者となるよう投資し、エンパワーしていくことが必要です。全人類のため、より安全で安心できる世界、核兵器のない世界の実現に向けて決意をあらたにいたしますよう

## 核兵器は 暴力の連鎖を 生み出す

東京都杉並区長

岸本 聡子さん



原水爆禁止署名運動発祥の地「杉並」から世界大会に連帯メッセージを送れることを誇りに思います。

ウクライナ情勢におけるロシアの核使用の威嚇を見れば、核兵器は平和を守る道具ではなく、他国への脅しに使う武器だとわかります。

北朝鮮の核開発と日米韓の危険な軍事演習が繰り返されています。

核兵器は戦争の抑止力どころか、持っているだけ不安と緊張、暴力の連鎖を生み出す悪魔の兵器だとわかります。

一昨年、核兵器禁止条約が発効しました。日本という唯一の被爆国が核兵器禁止条約に背を向けていることは残念であり、恥ずかしいことです。

核保有国や「核の傘」の下にいる国々でこそ



全国から寄せられた千羽鶴

# 「核抑止」への依存からの脱却を！

広島・長崎への原爆投下から78年となる今年、ウクライナ侵略を続けるロシアによる核先制使用に対する危機感もあり、核兵器をめぐる動きが世界の焦点になっています。広島市の平和記念式典には過去最高となる111カ国の代表が参加したことに象徴されるように「核兵器のない世界」を求め新しい動きが起こっています。

その一つは「核抑止論の破綻」です。広島市の平和記念式典では、松井一實市長は、各国の指導者に対し、「核抑止論」からの脱却を訴えました。新聞各紙はこれを受け、「核抑止論の破綻」を大きく取り上げ、岸田政権の対応に疑問を呈しています。

また、長崎の平和記念式典では、鈴木史朗市長が「長崎平和宣言」の中

で5月のG7の首脳会議の「広島ビジョン」は「核抑止」を前提にしていると指摘。核抑止に依存しては核兵器のない世界を実現できない。いまこそ、核抑止への依存からの脱却を勇氣を持って決断すべきと、訴えました。また日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求めました。

今こそ、核兵器廃絶の運動をより大きな流れとしてゆくことが求められています。



# ウクライナ取材報告

フリージャーナリスト

西谷 文和



23年5月5日から18日までウクライナに入った。ウクライナ上空は飛行機が飛ばないため、隣国ポーランドの首都ワルシャワから夜行バスでキーウへ。5月8日早朝5時半、ドーンドーンという轟音で叩き起こされる。ロシアのミサイルをウクライナの防空システムが撃ち落としたのだった。数日間首都キーウで取材した後、少々危険だが東部の街ハルキウに入った。キーウ発の夜行列車でハルキウに到着。駅前広場はガランとして誰も通行してきていない。まだ住民が戻って



とに地下鉄が営業して北東部のギュロイフ・プラチ駅まで。ロシア国境まではわずか50キロ。カメラを回しているところウオン、ウオンと空襲警報が鳴る。しかしシェルターに走る人も、慌てて木陰に隠れる人もなし。人々は何事もないかのようにそのまま歩いていく。ここではもう戦争が日常になっている。



地下鉄の駅からさらに東へ。国道沿いには破壊された民家やガソリンスタンド、教会などが延々と続く。徹底的に破壊されたドライブインの前でカメラを回す。ドライブインの隣にEUのマーク付きの仮設住宅。全て無人だった。この地点でロシアまで25キロ。もし「2度目のロシア軍の侵攻」があれば真つ先に占領されてしまふ。仮設住宅があっても住民は戻れない。



さらに東へ。テシュケ村に入る。国境まであと20キロ。小規模なニュータウンが壊滅している。建つてまだ2、3年のおしゃれな新築一戸建ての家々が全滅。門扉にはウクライナ語で「ここには人が住んでいません」と走り書き。無人の村に青年が2人。大工さんだった。家主の依頼で修理にきている。しかしこの地域は



電気なし、水道なし、地雷あり。ミニバンがやって来た。スピトラナさん(38)一家はハルキウ市内に避難しているが、数日おきに自宅を点検しにやってくる。彼女の案内で自宅へ。扉に銃弾の穴。ガレージの屋根には小型ミサイルの大きな穴。電気が来ないのにスマホで照らしながら屋内へと進む。子供部屋に娘さんが描いた絵と教科書、ぬいぐるみ。応接間に数多くのメダル。彼女は陸上選手で記録保持者なのだった。スピトラナさんと別れてさらに東へ。地雷撤去の車とすれ違う。この辺りまで来ると通行人は皆無、車とも滅多に出会わない。破壊された橋が現れた。戦争初期にウクライナ軍がこの橋を破壊。ここで滞留したロシア兵に銃撃を加えた。戦争では渡河作戦が問題になる。イルピン川でもドニプロ川でもそうだが、川を挟んでの撃ち合いになることが多い。

この橋からさらに車で20分、もう誰もいなくなる。「ジャレンナ通り38番地」の看板がかかる家がある。車を止めて撮影。



この家の向かいには小さな公園になっていて、倒された遊具に「MINE」とある。地雷注意という走り書き。公園の奥はうっそうとした森で、ロシア軍がここで野営していたらしい。ロシア兵たちが防御用の地雷をたくさん埋めたようで、もうこの森には入れない。赤いドクロマークがある。先ほど車ですれ違った地雷撤去チームが掲げたのかも。この森を撮影していると、10数匹の犬が出て来た。私たちに向かって吠えながらやって来る。飼い主がいなくなってお腹をすかせているのだ。

ウクライナ滞在最終日、キーウ郊外の「国立21番サナトリウム、インターネット学院&孤児院」へ。ウクライナでは公立施設には全て番号がついている。ここに寄宿する生徒175人中、28名がバフムト、マリウポリの激戦地から避難して来た子どもたちだ。



福島原発の事故直後、誰もいなくなった村の国道に犬やイノシシ、牛が出て来たが、あれと似たような光景。戦争も原発も故郷を徹底的に破壊し、無人の村にしてしまう。この地点でロシアまであと15キロほど。「もう進めない、引き返そう」。通訳の忠告に従ってハルキウ市内へと戻る。ウーウー。不気味なサイレンが鳴り響く。



この子どもたちに兵庫県丹波市の中学生たちから預かった草木染めのハンカチを手渡す。ハンカチには英語メッセージが書かれていて、「なんていう意味?」「どう読むの?」と半パニック状態に。ハンカチは大変喜ばれた。彼ら彼女らの関心の一つが日本のアニメなのだ。「ナルト」「ジブリ」はそのまま通じる。悲惨な戦争取材の中で、このような文化交流が大事だなーと感じる。子どもたちは英語の読み書きができないので、ハンカチは一つの教材にもなる。次回は175名分の学用品を配りたいなと思う。



**戦地** ウクライナに平和を!

**ウクライナ取材報告会**

ジャーナリスト・西谷文和さん

2023年7月22日

主催 大阪母親大会連絡会



7月22日上記の講演会に行ってきました  
5月からウクライナのハルキウに現地取材に行かれた現地報告会があるということで講演会場に副理事長の上村さんと二人で駆けつけた次第です。そして講演会場でAALAの機関紙に是非投稿してくださいと上村さんをお願いしました。  
西谷さんは快くひきうけてくださり後日、お忙しい中、9月号担当の堀内まで原稿を送信していただきました。ここに改めて御礼申し上げます。  
西谷さんが書かれた左記の本はAALA事務所にあります。  
ご希望の方はご連絡ください。

# 大阪カジノは止められる！

カジノ問題を考える大阪ネットワーク

藪田ゆきえ

## ○審査結果の

厳しい中身

毎月1回京橋駅で宣伝しています。4月14日に国が夢洲カジノを認定して以来二つの傾向があります。一つは「もう決まったんでしょ」。もう一つは「カジノなんか来たら絶対いや」といういまだに強い嫌悪感です。

「もう決まったんでしょ」の声には「今進んでいる住民訴訟で住民が勝てば、大阪市はカジノに土地が貸せなくなり、国による認定が取り消されます」と説明し、署名に協力してもらいます。審査委員会の結果はきびしい内容です。地域住民の合意がないこと、観光への効果も疑問、災害時の避難経路も橋とトンネルしかないこと、依存症対策が不十分など、「こんな審査結果でよくカジノを認定したな

あ」と思います。カジノに反対する数団体と共同してIR推進局に対し、審査結果につけられている7つの条件をどうクリアするつもりか質問書を提出しているところですよ。

## ○夢洲の危険性がますますはつきり

2013年以来、カジノというばくち場を作ることについて反対してきましたが、何か夢洲を視察する中で、「こんな場所に人を集めてはいけない」ということもはつきりしてきました。私たち運動する側だけが言っているのではなく、カジノをつくる口実とされてきた万博の開催が危うくなっています。

資材の高騰など経済情勢もありですが、夢洲という埋立地（浚渫土砂、建設残土、ごみなどで埋め立て）が、高層の建築物が建てら

## ○ギャンブル場はスマホの中に

日本はすでにギャンブル大国です。2019年以来、コロナでギャンブル場に行く人口は減っていますが、公営ギャンブルの売り上げはすべて増えています。それはインターネットで賭けられるからです。

ギャンブル被害に取り組む司法書士の方は、「とばく場へ行かなくてもスマホでお金が賭けられる。銀行はホームページでインターネットギャンブルへの道を誘導している」。

カジノができれば、今は違法とされているオンラインカジノもすぐに合法化されてしまうでしょう。

これは大阪だけの問題ではありません。日本の国のある立場で問われる政策です。署名も全国に呼びかけています。

れない土地であることがネットワークになっていきます。6月2日の大雨で夢咲トンネルが半日不通になりましたが、夢洲が沈んでいるからだと言われているからだと港湾局が認めています。

## 第71回

# 関西平和美術展

7月26日〜30日まで堺市立文化会館ギャラリーで開催されていた関西平和美術展に行ってみました。

作品はどれも力作ぞろぞろで、大変充実したものでした。知人の作品もいくつか見かけました。

多くの作品に反戦平和の思いが込められていて芸術の力を感じさせられました。

下の91人の作家による「ウクライナと世界に平和を！」という平和の壁は現在の多くの人々の願いのこもったものでした。

また廊下に展示された広島の高校生が被爆者の話を聴き、描いた原爆の絵は世代継承の大切さを実感させられました。

「関西平和美術展」は、毎年開かれてほしいものだと思います。

堀内 保孝



## 「烏鷲の争い」

小林保夫（弁護士）

「烏鷲の争い」とは囲碁のことです。

古い言葉なので、今では余程の碁好きでも知らない人が多いでしょう。

「烏」はカラス、「鷲」はサギで、カラスの羽根の黒色、サギの羽根の白色から黒色の碁石、白色の碁石を指す、一種の隠喩なのです。

囲碁は、黒石と白石で19路四方の盤上、どれだけ多くの陣地を囲むかで勝敗を決する争いです。

勝敗の決し方が単純で、しかも勝敗までの道行きが複雑なことから、世界中に多くの愛好者がいます。

私も「下手の横好き」の喩えどおりで、揶揄を免れません、熱烈な愛好者です。

私は、おそらく、外国の碁会所で碁を打つことや、何カ国もの外国人と碁を打つことでは自慢できるのではないかと自負しています。

イギリスはロンドンの、コベントガーデンという古い街の古い市場の3階の碁会所でイギリス人と烏鷲を戦わせたのは若い日のなつかしい思い出です。当時の日本のタバコの煙にけむる碁会所と違って、室内の澄んだ空気が今でも記憶に残っています。

チェコスロバキアのプラハで、バスの車窓から、屋上に碁という漢字を〇で囲んだ看板が掲げられている碁会所を発見した時は興奮を覚えたものです。

外国人との棋戦では、ロシアのモスクワで、バスツアーのガイドさんの紹介で、私が泊まっていたホテルに折り畳みの碁盤と碁石を携えて訪ねてくれたロシア人の愛好者と2番戦ったことがあります。

私は、日本を遠く離れたこんな異国で、こんな愛好者と出会うことが出来た感激から、旅の路上での慰みに持参していた小林光一の碁書を贈呈して千載一遇の出会いに感謝の気持ちを表しました。

なお、このロシア人は、小林光一が名人位などを持

つ日本の高名な棋士であることを知っていました。

また、私は、韓国の民主的な法曹との交流に際して、豪華な晩餐の機会を失いながら、かの国の壮年の弁護士と碁を打つたことがあります。

韓国は囲碁人口が多く、しかも賭け碁でも有名ですが、かの弁護士と先番を決めながら、「賭けますか。」と声を掛けられたのには驚きました。

あとで、同弁護士は、弁護士の間でも賭け碁で若い弁護士から金を巻き上げることで有名であると聞きました。それぞれの国で囲碁をめぐる風習にも違いがあるようです。

ちなみに、日本では囲碁は茶道にも通ずるような扱いを受けていますが、中国では囲碁は、はっきりとスポーツの一つに位置づけられています。

最後に、インターネット上での囲碁の国際性を紹介しましょう。

インターネット上、日本棋院が開設している「パンダネット」というサイトがあり、おそらく世界中で何

万人という加入者を得ているでしょう。

私は、今では、高齢のため外国に行き異国の人たちと烏鷲を戦わせるという楽しみ、喜びを味わうことが出来ませんが、インターネット上での棋戦の愛好者です。

パンダネットには、日本・中国・韓国などのアジア諸国、南アフリカを初めとするアフリカ諸国、ドイツ・イギリス・フランス・イタリアなどのヨーロッパ諸国、ロシア・ウクライナ・クロアチアなどの東欧諸国、カナダ・アメリカ合衆国・ブラジルなどの南北アメリカ諸国など多くの国の愛好者が参加しています。何万回という棋戦の回数を重ねる外国人の参加者も少なくありません。

時差のせいで、ヨーロッパ、アメリカなどの愛好者は、日本の深夜に登場するのが普通です。

さて、参加者は、国内国外を問わず、それぞれ自分のニックネームを登録しています。例えばbgcaoさんは中国、brinchiさんはクロアチア、raboitchiさんはブラジルといった具合です。

ほとんどの場合、それぞれのニックネームの由緒はわかりません。

かつて、インドネシアの参加者でOceanbuntan（オランウータン）というニックネームを名乗る人もいました。

私も、あるニックネームを登録しているのですが、かつて日本棋院の認定会では、ようやく5段という認定を受けているにもかかわらず、パンダネット上では戦績が芳しくないのに明かす気持ちになりません。



2022年2月24日、

突然ロシアがウクライナに侵攻し、今もたたかいが続いており、多くの犠牲者を生じている戦火のひどさ、悲惨さから世界中の多くの人たちが一刻も早い終結を臨んでいるのですが、容易に停戦にいたる見通しはありません。

(P8)

ウクライナの戦場が拡がり、そこでは多くの砲弾が飛び交い、その度毎に多くの家屋が破壊され、多くの死者・傷者が出ていることが報じられ、胸がふさがる思いを禁ずることができません。

実は、パンダネットのサイト上にもロシア、ウクライナ双方の愛好者が登場しています。

インターネットの盤上でウクライナ、ロシアの参加者のたたかいは、まさにウ・ロの争いに止まり、平和なたたかいです。

私は、しばしば、ウクライナの参加者のニックネームを見ない日は、戦火の犠牲になり、姿を消したのではないかと心配するのですが、数日して、またそのニックネームを見つけると、ひとまずほっとするのです。

ほんとうに、争いは盤上で烏鷲の争いに止まって欲しいと願うこと切です。

[英語で世界を読む会]

私は2008年頃、当時の中心メンバー 故奥村和巳氏の紹介で入会した吉田一朋です。

Hello How awesome! We have been reading the latest topics and news written in English. Why don't you have time to share English? We look forward to learning it with you.

今、幸齢者を含め8名が月1回(通常第4火曜日PM2:00~4:00) JR玉造駅近くのAALAの事務所で頑張っています。

英文資料は、事前に配布され、その時に一人一枚(A4コピー)を読んで訳すページの分担を決めます。大体、1回で6~8ページを読みます。難解な文もありますので、皆で話し合いながら合意形成を図ります。また、横道にそれる話になりますと、ホッとすることもあります。資料は本来メンバー全員が担当すべきかもしれませんが、今は、大阪大学に在籍され、学ばれている安井倫子さんに頼っています。

15年近く勉強させてもらい英語力は少し向上、でも視野は広がったという思いがあります。 Thank you see you.

次回 9月26日(火) PM2:00~4:00

< 大阪AALAニュース原稿募集 >

- ツアー報告 ○ 政治や社会世界の動き等
- 文字数2000字程度、写真6~7枚程度添付をお願いします
- 文芸欄 紙面の都合上「俳句」「川柳」「短歌」で1人3句
- ◎ 締め切りはその月の15日着をお願いします
- 送り先は下記、封書、メール、Faxいずれでもけっこうです。

文 芸 欄

川柳

岸田首相専守防衛蹴つ飛ばす

プーチンは小麦出させず飢え送る

核禁を言わず首相は広島へ

ヒバクシャと総理挨拶齟齬がある

八冠に王手をかける王座戦

マイナカード動機が不純ノーと言う

大阪府四条畷市 西川 寛

大阪市旭区 近藤 正

大阪AALA  
へのお誘

会費 月800円(年9,600円) (25才以下は年3,000円) \*入会金 500円  
\*会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金お願いします  
\*会費の中に機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送します



発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会 (大阪AALA)  
Osaka Asia Afrika Latin America Solidarity Committee  
〒540-0004 大阪府大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F  
TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361  
E-mail osakaaala@nifty.com HP:http://osakaaala.la.coocan.jp

